

## は じ め に

鳥取県衛生研究所が昭和63年度に実施した業務の概要をとりまとめ、所報第29号としてお届け致します。

当研究所は、県民が健康で快適な生活ができるように、健康の増進と生活環境の保全のための試験検査・調査研究の分野で、科学的・技術的な資料提供を行う機関として鋭意努力してきたところであります。

しかし、今日、保健衛生をとりまく情勢は厳しく、エイズ、非A非B肝炎などの新しいウイルス感染症の問題、二酸化炭素による地球温暖化、硫黄酸化物による酸性雨、地域開発や技術革新に原因する環境汚染問題など多くの課題があります。このような社会環境の変化に的確に対応できるような高度な技術、設備、態勢づくりが要求されているところであり、当研究所の最大の課題であります。

調査研究についても、紅斑熱など各種感染症の疫学調査、酸性雨調査のように一県の問題としてでなく、広域にわたり多機関による共同研究の問題として取り組むことが求められてきております。

衛生研究所の役割としては、行政が抱えておる問題を解決のため、調査研究等で補足することだけでなく、衛生・環境の実情を把握し、必要な知見と技術の集積を図り、将来の課題を予見し、有効な行政施策が効率良く選択され実行されるために、その存在と職務の重要さがあると考えます。

県民の健康と生活を守るため、新しい技術情報の収集および高度技術の取得に努め、衛生環境行政の科学的・技術的中核として時代の要請に即応できるよう、所員一同研鑽に励んでまいりたいと思っておりますので、今後とも関係各位の一層のご指導とご鞭撻をお願い致します。

平成元年11月

鳥取県衛生研究所

所長 武 林 甫